くま経プレス

暮らし

「いざ」という時に備えて

これからのお葬式を考える

～人生最期のセレモニー～

形式的でしきたりを重視したものが多かったお葬式も、以前に比べると本人や家族の希望を取り入れた感動の度合いが高いお葬式が増えてきています。そこで、今回は「これからのお葬式」について、考えてみたいと思います。

●今後の葬儀のあり方についての意見（アンケートから抜粋）

★本人の希望に添ったものが行えればよいと思う

★もう少し自由な葬儀についてのケースを知りたかった。ありきたりのものしか、アドバイスされなかった

★何事も形式、世間体にとらわれずにできるとよいと思う

★突然の場合が多いので、縁起が悪いと考えずに、生前にある程度情報収集しておくべきである

★残る家族が迷うこともあるので、亡くなる前の生前から指示があればベター

★簡素化、合理化できるところはしていく。お付き合いは必要ない

★人の生き方もさまざまであるのに、葬儀は画一的、形式的で横並びに感じる。もっと自然に人の死を悼む葬儀があってもいいと思う

★葬儀に時間の区切りはあると思うが、次々と進行されてしまうと、故人を偲ぶ余裕もない

★葬儀社にカタログを見せられると自然にそうようになってしまうので、「こういうのもありますが、このような簡素なやり方もありますよ」とアドバイスをしてほしい

★気持ちを込めて送ってあげれば、派手でなくてもいい。質素でいいと思う

★社会環境の変化に伴い、必ずしもこだわらず故人を送る気持ちを第一に、自由であってもよいと思う

★そんなに費用をかける必要はないし、見栄は張りたくないと思う

★今までの葬儀の形式のワクから離れた発想で葬儀社にはサービスを提供してほしい

★家族はいろいろなことにわずらわされず、最期のお別れができることが望ましい

★身寄りのない人が頼れる場がないと困るのではないか

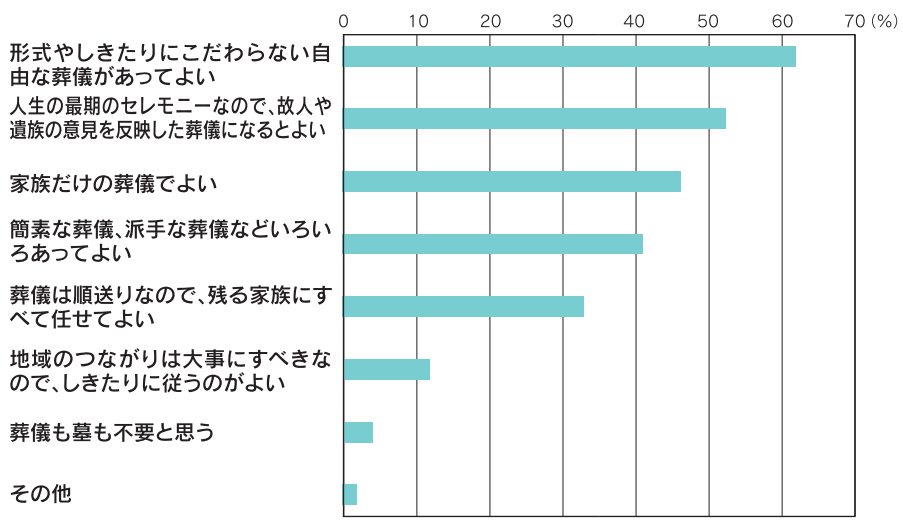
★意味が理解できないお経が長い間続くより、故人が愛唱したものや、関係深い音楽を奏でる。別離の思いを深くし、厳かな葬送となる

★「どうすべきか」は考えず、自分の最期に「どうしたいか」を考えることはよいと思う

★自由な葬儀の情報がもっとあってもよいと思う

★簡素で心のこもった葬儀にすべき

●今後の葬儀のあり方



グラフ、意見：(財)日本消費者協会 第8回「葬儀についてのアンケート調査」報告書より

形式やしきたりにとらわれずに、本人や家族の想いを大切にした自由なお葬式をしたいという意見が半数以上を占めていました。しかし、それぞれの想いを大切にしたオリジナルのお葬式をするには、決まったやり方で送る場合よりも「考える時間」が必要になります。亡くなってからではゆっくりと考える時間はなかなかありません。生きている今、体が元気な今のうちに人生最期のセレモニーについて考え、家族や親しい人と話し合ってみましょう。

知って得する なるほど！お葬式講座

第4回 “自分スタイルのお葬式”ってどこまでOK？

「費用がかかり過ぎる」「形式的」「世間体にこだわり過ぎている」と言われることも多いお葬式。でも、自分流のお葬式といっても、どこまで自由にできるのでしょうか？お葬式の基本的な決まりと自由度について、くまもと県民葬祭の森さんに伺いました。

くまもと県民葬祭　森　輝和 社長

お葬式も、まずは法を守る

これまでのお葬式は、形式通りの型にはまったスタイルが中心でしたが、最近は消費者のお葬式に対する考え方も多様化し、本人や残された家族の希望をできるだけいかしてお葬式を行いたいという意見も増えています。ただ、「こうしたい」という希望があっても、お葬式にはいくつかの法律的な制約があるので注意しましょう。

①死亡届を出す
届け人に該当する人（親族、同居人、後見人など）が死亡日から7日以内に届出なければいけない

②死亡してから24時間以内の火葬・埋葬の禁止
火葬するためには火葬許可証が必要で、火葬は火葬場でしか行えない

③焼骨（火葬した骨）を墓地・納骨堂以外に埋葬・納骨してはいけない
ここでいう埋葬とは、地面に穴を掘って埋めること

以上の3点は法的に守らなければいけない事項です。これ以外の部分、例えば通夜・告別式、読経、焼香などをするかしないかは宗教的な形式や慣習によるものなので、希望しなければしなくてもよいことなのです。

自由度の高いお葬式って…？

では、”自由なお葬式“といってもどのようなものがあるのでしょうか？例えば、よく耳にする「ミュージック葬」。みなさんのイメージとして、アンサンブル奏者による生演奏や、ピアノ演奏などを連想する人も多いかもしれません。しかし、奏者をわざわざお葬式に呼ばなくても、参列者全員で故人が好きだった歌を歌ったり、孫が亡くなった祖父のために会葬者の前で歌を披露したり、故人が生前に録音していた歌を告別式で流すなど、アイデアや希望次第でどのようにも”想い“を形にできるものなのです。

そのお葬式、心の整理できていますか？

本来の通夜とは、夜通し故人を家族や近親者で看取り、朝になって体が冷たくなり本当に亡くなってしまったのだと自覚し、死を受け入れるための大切な時間です。しかし、従来型のお葬式の方法では、通夜や告別式に遺族や故人と縁の深かった人以外にも、故人と直接縁のなかった会葬者（故人と会ったことはないが遺族とのつながりで参列する会葬者）も含めて、式のある1時間程の間に集団で参列するため、遺族は対応に追われてしまいます。

従来型の葬儀のデメリット

遺族
- ●故人とのお別れの時間が十分に確保できず、心の整理ができない
- ●通夜や告別式に多くの会葬者が一度に参列するので対応が不十分になる

参列者
- ●時間に拘束されてしまう
- ●通夜や告別式の大半が読経の時間で、故人と対面できる時間が一瞬…
- ●遺族に声をかけられるのも葬儀終了後のほんの一瞬

新しい葬儀、”ゆっくり葬“のススメ

そこで、家族や近親者だけで故人との別れを偲ぶ時間と、会葬者対応の時間を区別する方法があります。遺族や故人と縁の深かった人たちだけで通夜をして、その翌日または翌々日の午前10時から午後3時まで「お別れ会」という形で開く方法です。時間は例ですが、この場合は5時間のお別れ会開催時間中の都合の良いときに、会葬者は参列できます。

Point お別れ会は開催時間に幅をもたせる

”自分スタイルのお葬式“では、①お葬式は法律を守りながら、②残された家族や故人と縁の深かった人がゆっくりとお別れすることで心の整理ができる、③会葬者も余裕をもって故人と対面する時間がある、このポイントをおさえたお葬式なら、悔いの残るお葬式、心の整理ができない悲しいお別れが、少しでも減るのではないでしょうか。

“ゆっくり葬”のメリット

遺族
- ●通夜では故人との最期の夜を周囲を気にせずゆっくりとお別れできる
- ●お別れ会では時間的余裕があるので、それぞれの参列者に対応できる

参列者
- ●自分の都合の良い時間に参列でき、時間的な拘束もない
- ●時間や他の会葬者を気にせず、故人と対面してお別れができ、自由に遺族に話しかけることができる

次回は「くま経プレス12月号」掲載（11月28日発行）

次回テーマ「自分に合った葬儀社の選び方」

このコーナーではみなさんからの葬儀に関する質問・ご意見をお待ちしています。お葉書またはメールにてお寄せ下さい。

〒860-8552（住所記入不要）「くま経プレス お葬式講座」係まで
press@kumamoto-keizai.co.jp

メールマガジン（無料）配信中

参列マナーから葬儀業界のウラ話まで、皆様に役立つ情報を毎週火曜日に配信中です。
ご登録はウェブサイトのトップ画面から簡単にご登録できます。

くまもと県民葬祭　検索

www.0077-78-1059.com

くまもと県民葬祭　〒862-0923 熊本市東京塚町19-47 TEL096-386-1059 FAX096-288-9948　通話料無料 0077-78-1059　24時間365日いつでも受付中！（土日も可）

つどう、語らう、心がかよう お葬式 ファミリースペース東京塚 FAMILY SPACE HIGASHI KYOZUKA